

第19回ライチョウ会議ぎふ大会を終えて

2020年11月、第19回ライチョウ会議ぎふ大会 ～県の鳥「ライチョウ」の現状と保全 新たなステージへ～を岐阜県岐阜市（岐阜大学講堂）で無事開催することができました。

本大会は、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、第2波が落ち着き、第3波へ突入する直前のタイミングで、奇跡的に対面開催することができました。直前まで開催が危ぶまれ、開催できても皆様にご参加いただけるのか、大きな不安の中で大会実行委員一同、その日を迎えたことを今でも鮮明に思い出します。

おかげさまで県内外、そして全国から2日間でのべ503名もの参加があり、大盛況となりました。当日は、岐阜県や岐阜大学が定める徹底した感染防止対策を行い、本会場は定員を決め、また念のため映像配信のみのサテライト会場も学内に設けて実施しました。

岐阜県内でのライチョウ会議大会の開催は、2004年（第5回）と2012年（第13回）に、生息地である高山市内で行っています。偶然にも、今大会は8年周期の3回目でした。ライチョウの生息地ではありませんが、岐阜市内であえて開催することで、岐阜県全体の機運を盛り上げることを意図しました。

1日目の「ライチョウシンポジウム」では主に岐阜県が主催し、最初に信州大学名誉教授・ライチョウ会議議長の中村浩志先生に「ライチョウの生態と未来」と題した基調講演を行っていただきました。次に、大会実行委員長のあいさつを兼ねて、私が話題提供「岐阜県民も県の鳥”ライチョウ”のことを知ろうよ！」（実は本当の題目は「岐阜県民はライチョウが嫌いなのか？」でした）と題して雑談を行いました。そして、リレートーク「ライチョウ保全の最前線」として、生息地から、研究者から、岐阜県から、動物園から、環境省から、それぞれ専門的かつ最新の活動や情報を共有いただき、活発な総合討論が行われました。

2日目の「ライチョウフォーラム」では主に岐阜大学が主催し、3部構成で、ライチョウの生息地での取り組み、動物園での生息域外保全の取り組み、野生復帰にむけた研究の取り組みとして、それぞれの第一線で活動されている方々による専門的な講演が行われました。

この大会にあわせて、2020年11月4日～12月1日の約1ヵ月間、会場横の図書館エントランスホールで、岐阜大学・岐阜県博物館連携企画展「ライチョウ展」を開催しました。大会の日には、参加者のほとんどの方にご覧いただくことができました。

そして、この大会にあわせて、ライチョウ本の決定版『神の鳥ライチョウの生態と保全—日本の宝を未来へつなぐ』という書籍を作り、会場で先行販売を行いました。中村浩志先生をはじめ執筆者総勢70名以上で、緑書房の協力を得て、無事発刊にこぎつけることができました。大会に関わってくださった方々や参加者の皆様はもちろん、本書に関わってくださった多くの方にも、改めて御礼申し上げます。

大会のアンケートでは、参加者から「様々な話題が提供され、とても参考になった」、
「今後、関係者間での連携が進み、ライチョウの保全が推進されることを期待します」、
「高山帯に生きている動植物が地球温暖化によって生息生育地がなくなってしまうことに、私たち人間がどのような対策ができるのか考えていきたい」などの感想が寄せられました。

大会の様子は、岐阜新聞、朝日新聞、毎日新聞でも取り上げられました。また、大会の内容は、翌年、Webサイト「ニッポンドットコム」に、日本語だけでなく、英語、中国語、ロシア語などでも紹介されています（<https://www.nippon.com/ja/japan-topics/g01195/>）。

岐阜県では、これまでライチョウに関する行政面の取り組みが遅れていたことについて、関係者から多くの批判があり、1日目のリレートークの中でもそういった意見が出されました。今回の大会の開催は、そうしたことを変えていきたい私の気持ちが強くあったことから、岐阜県庁との共催で実施できたことは、内心大きな成果であったと思っています（もちろん、共催にこぎつけるまで、かなり大変でした・・・）。

岐阜県内では、大会以降、今までになかった様々なライチョウイベントが続いています。大会を契機に少しずつではありますが、県内の雰囲気が変わってきたことを実感しています。具体的には、2021年は、岐阜県博物館・岐阜大学連携企画展「ぎふの鳥 ライチョウー知って守ろう県の鳥ー」が開催されました。また、高山市が中心となって開催している「乗鞍フォーラム」の2021年はライチョウがメインテーマに、岐阜県獣医師会が動物愛護週間に行う「動物愛護フェスティバル」でもライチョウの講演が行われました。岐阜県獣医師会では、大会後、県下の全加盟病院にライチョウ保護募金箱が設置されています。2021年の岐阜県定例議会では、議員から「ライチョウの保護と県民の理解の促進について」という一般質問が行われ、岐阜県環境生活部長が答弁する機会がありました。これまでの様々な活動の場面に県議会議員や市議会議員が参加されていたため、行政を動かす力につながっているのではないかと信じています。2022年4月には、岐阜県と岐阜大学が共同設置する岐阜県野生動物管理推進センターが開所していますが、このセンターの事業の1つに、ライチョウ生息域におけるニホンジカの調査が掲げられています。2022年度末には、普及啓発を目的としたライチョウシンポジウムの開催、2023年には高山市内でライチョウ関係の企画展が予定されています。

ライチョウ会議ぎふ大会の開催は、意図せず様々な形で波及しています。「実は岐阜県民はライチョウが好きだった。」と言える日が早くやってくることを楽しみにしています。



2022年12月

大会実行委員長 **楠田 哲士**
国立大学法人東海国立大学機構
岐阜大学応用生物科学部准教授